

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278200155		
法人名	有限会社ワイ・エイチ企画		
事業所名	サンシティあらい		
所在地	湖西市新居町新居117-3		
自己評価作成日	令和4年10月3日	評価結果市町村受理日	令和4年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyouCd=2278200155-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouCd=2278200155-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和4年 11月 4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で自由に面会が出来ない事が多いため、今まで以上に入居者様と職員が家族のような、アットホームな雰囲気笑顔のある居場所創りを心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人本部が併設する事業所の立地により、法人本部と連携した事業所運営ができています。管理者は、外国人職員にも配慮して記録・マニュアルにフリガナ(ルビ)をつけて、職員同士の丁寧な意思疎通を心掛けている。運営推進会議はコロナ禍により書面開催が続く中、資料配布時に意見用紙を添付し、委員との情報共有と意見の吸い上げの仕組みを整え事業所運営に反映している。家族との関係継続を重視し、「サンシティあらい新聞」を発行して利用者等の様子を伝えるとともに、併設のデイサービス休業日を利用した予約面会を行うなど、感染状況等に配慮した柔軟な対応を心掛けている。調理専門職員が季節ごとに多彩なメニューを提供する食事や、通院時に利用したドライブや近隣の散歩、行事レクでのお祭りなど、利用者の希望を確認しながら利用者個々の支援に注力している。感染症対策として、毎朝の清掃・常時換気・こまめな消毒の徹底に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットのフロア内や、施設内各所に掲示し、いつでも確認する事が出来るようになってきている。各ユニットに掲示してある物は、外国人職員にもわかりやすいように、ふりがなをふってある。	記録にはフリガナ(ルビ)をつけて外国人職員にも配慮しながら、職員同士の丁寧な意思疎通を心掛けている。管理者は、申し送りノートにこまめに目を通し、朝ミーティングにて情報共有を図っている。運営推進会議議事録に事業所の理念を記載し、常に意識した支援の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月1回施設の新聞を同地区と隣の地区に回覧してもらっている。地域の女性の会の方が玄関のお花の植え替えに来て下さる時に施設内の様子を話したり、入居者様と植え替えを見学させてもらったりしている。	コロナ禍により地域行事への参加を制限する状況が続いているが、「サンシティあらい新聞」の回覧などにより地域住民との関係継続を図っている。平常時に交流のあったシニアサロンやボランティアと連絡を取り、関係継続を心掛けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ前の運営推進会議や地域交流の際に認知症について話をしていた為、地域の方から相談があったり、入居者ご家族から相談がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により、運営推進会議が書面会議となり、資料を配り意見を頂くような形をとっている。折り返しの形ではあるが意見をくださった事をサービス向上に活かすよう努めている。意見については次の運営推進会議で報告をしている。	コロナ禍の現状で書面開催が続いているが、運営推進会議資料配布の際には、意見用紙を添付し、委員との情報共有と意見の吸い上げる仕組みを整えている。委員からの多様な意見や指摘を受け、事業所運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現状や取り組みなどについて相談したり、報告をし、意見や助言を頂いている。	運営推進会議は書面開催が続いているが、法人本部統括担当者や管理者は、都度意見の聴き取りを図り、逐次情報交換できる関係を継続している。シニアサロン開催の相談や中・高生の福祉体験実施などの相談実績がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしている事を日頃から話しており、身体拘束をしない介護を常に考えてケアに努めている。	指針・マニュアルを整備して、身体拘束適正化委員会を3か月に1回、職員研修会を年2回開催している。外国人職員にはフリガナ付きの研修資料を用意して、職員全員が身体拘束を行わないことの意味を理解して、日々の支援に取り組んでいる。	

静岡県(グループホームサンシティあらい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員とのコミュニケーションをしっかりと、個別での話し合いや身体拘束委員会などでも話し合いをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が主に学んでおり、必要性があると判断したり、相談を受けた時に支援できる体制が取れるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはわかりやすい説明を心掛け、確認しながら進めている。また、質問があった時には、理解して納得していただけるよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で書面運営推進会議になったり、行事が出来ない事から、以前より電話連絡する機会を増やして意見や要望を聞き出せるよう努めており、意見や要望がある時にはサービスに反映出来るよう努めている。	毎月「サンシティあらい新聞」を発行し、利用者や事業所の様子を伝えている。コロナ禍による面会制限が続いているが、併設のデイサービス休業日を利用した予約面会を行うなど、感染状況や利用者の状態を考慮した柔軟な対応を心掛けている。	コロナ禍の中、感染状況に配慮しながら面会方法を模索している状況ですが、今後も面会制限が続くことが予想される中、遠方に住む家族でも面会できるオンライン面会など、家族からの意見を聴取の更なる工夫の検討を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者共に職員が話しかけやすい雰囲気創りに努めており、また、職員に話かけ、困っている事、意見、提案がないか等聞いている。	管理者は、日頃から職員への声掛けを心掛け、職員からの意見を聴き取りやすい環境作りに努めている。課題が散見された場合は、都度申し送りや朝ミーティングにおいて必要な情報の共有に努めている。法人本部が隣接し、法人代表も常に意見交換できる状態である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員一人一人を理解して、常に勤務状況を把握できるよう努めており、各自が働きやすく、向上心が持てるよう話をしたり、対応に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が希望する研修等があれば、費用を負担したり、管理者に行きやすい勤務体制を整えるよう指示し、研修等に行きやすい体制創りに努めている。		

静岡県(グループホームサンシティあらい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により、オンラインでの研修会が多く交流の機会が減ったが、電話で情報交換やお互いに相談し合ったりしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から話を聞き、不安な事や困っている事などを聞き取り、「こうしたい」「ああしたい」などの「要望等」にも耳を傾け、安心して生活できる為の関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の話し合いの段階で、家族の意向、要望を出来る限り確認し、出来る事、出来ない事を明確にし、お互いが共通の認識を持つるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態、環境などを理解し、他のサービス利用も含め、その時に合ったサービスを提案、提供をし、本人家族が必要とするサービスが受けられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを大切にし、お互いの信頼関係を築き、寄り添った立場で、日常生活を送る事で暮らしを共にする者同士の関係を気付けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との話し合いの中で、家族の協力が不可欠であり、家族と施設は「チーム」として考えている事を理解して頂き、お互いの関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍以前には馴染みの場所に可能な限り行ったり、話をして思い出してもらったり、馴染みの人に面会に来てもらったりしながら関係が途切れないよう支援に努めていたが、現在、面会制限を行っていたり、外出を控えていたりで十分な支援が出来ていない。	コロナ禍により外出・訪問が制限される中、家族や利用者から聞き出した話を参考に、地域の散歩や通院時の外出を利用しながら、できる限りの支援を心掛けている。事業所内の行事レクでお祭りを行ったり、月1回理容師訪問など、事業所内での日々の暮らし方の工夫を図っている。	

静岡県(グループホームサンシティあらい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格や入居者同士の関係を把握し、職員が架け橋となり、入居者同士話をしたり、一緒にレクリエーションを楽しんだり、孤立することなく、安心して生活できるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、いつでも相談に来てもらえるよう話をし、相談があった時には対応できるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の話の中で一人一人の希望、意向、要望を聞き出したり、感じ取れるよう努めている。また得た情報は職員間で共有している。会話が困難な方の場合には、表情や動きを観察して気持ちをくみ取れるよう努めている。	管理者とケアマネジャーは、入居時、利用者や家族の意向や暮らし方の希望について「フェイスシート」に整理し、職員と情報共有している。入居後「ライフサポートプラン①②」により、時間ごとの暮らし方を細かく確認しながら、利用者・家族の意向に沿った支援の実践に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族や担当ケアマネから情報提供してもらったり、ご本人の話を聞いてご家族に確認したりしながら入居前の生活やサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活リハビリの中で、生活リズム、心身状態、持っている力を把握し、状態変化があった時には申し送りをし、現状把握が出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の現状を理解したうえで、より暮らしやすくなるために、必要に応じて話し合いをし、ご家族の納得の下、現状に即した介護計画を作成している。	「ライフサポートプラン」「経過記録」などの記録作成にはタブレットや申し送りを活用し、情報の共有を図っている。外国人職員も多いことから、課題が散見された折には都度カンファレンスを行い、利用者の状態に沿った丁寧な意見交換や情報共有を心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の観察から、気になる言動や行動、様子などは記録し、申し送りをし職員間で共有し、介護計画の見直しに活かしている。		

静岡県(グループホームサンシティあらい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対し、固定観念にとらわれることなく柔軟に対応し、支援が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、室外にはなかなか行けませんが、近隣を散歩する機会を作っている。散歩の途中で馴染みに人に会うことがある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に施設の協力医を希望される方が多いが、今までのかかりつけ医を希望される場合でも、病院と連携を取りながら支援している。	協力医は月1回の往診と24時間対応ができる。法人グループ所属の看護師が週1回訪問して健康管理を行い、管理者・職員と情報を共有している。他科受診やかかりつけ医への通院支援は、家族と相談のもと、事業所職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医、施設看護師との連絡はいつでも取れる体制になっており、入居者一人一人が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはスムーズな情報提供が出来るよう努めている。また、入院中の情報提供をスムーズにしてもらえるよう日頃から病院のケースワーカーとの関係作りを努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に方針の確認をしているが、状態変化や終末期に近いと思われるご家族には、主治医、施設と三者にて再度方針について話し合いをし、方針に従い共にチームとして支援に取り組んでいる。	重度化した場合の事業所の対応は、入居時に利用者・家族へ説明し、同意を得ている。終末期を迎える際には、再度主治医・看護師・職員が家族と再度話し合い、家族の意向に沿った対応と主治医や看護師と連携した支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていないが、日頃の支援の中で応急手当や初期対応についてその都度訓練をしている。		

静岡県(グループホームサンシティあらい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回の防災訓練を行っている。コロナ禍により、地域の方や消防署から来ていただくことはしていないが、津波、地震、火災、夜間想定訓練を施設内で行っている。	外国人職員のためにフリガナ付きの防災マニュアルを整え、年2回、併設事業所と共に避難訓練を行い、職員の共通理解を図っている。津波ハザードマップに従い、ライフジャケット着用訓練も実施している。備蓄品は3日間を目途に法人本部管理で備蓄し、ローリングストックにて管理している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に寄り添った支援を行う事で、人格を尊重し、プライバシーを損ねない声掛けや対応を努めている。	入社時に、プライバシー尊重やスピーチロックについての研修を行っている。接遇については都度管理者が注意し、配慮した声掛けや対応に取り組んでいる。毎月発行する新聞への写真掲載については、家族の許可を得て町内へ回覧している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の状態に合わせて、オープンエスションとクローズドエスションを使い分け、出来る限り自己決定が出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れは決まっているが、そこにとられる事無くそれぞれのペースで過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度床屋さんに来ていただいており、散髪、顔そりをし、身だしなみを整え、清潔を保つよう支援している。洋服など自分で選べる方には選んで頂いている。帽子が好きな方は室内でも帽子を楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	フロアから見える調理場で職員が支度をし、調理中の音や香りも楽しんでもらっている。入居者様と一緒に食器の片付けを行っている。	調理専門の職員が、食材を調達して季節ごとに多彩なメニューを提供し、食事を楽しむ工夫を心掛けている。職員は利用者とともに配膳・下膳を手伝いながら、会話から好みを聴き取り、行事食や日々の献立作りにも反映している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録し、必要量が摂取出来ているのか確認をし、その都度対応している。また、一人一人に合わせた食事形態で提供している。		

静岡県(グループホームサンシティあらい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にできない方もおり、夕食後に重点を置き、声掛けや介助にてその人に合った口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パンツを使用している方は夜間も布パンツで対応し、声掛けを行い失敗がないよう支援している。一人一人の排泄パターンを把握し、立てる方はトイレ誘導をし排泄支援を行っている。	タブレットを活用した「排泄チェック表」に水分量と排泄を記録し、利用者個々の排泄パターンを把握して声掛けや誘導を行い、トイレの利用を支援している。夜間ポータブルトイレ利用者も、日中はトイレ利用を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良いメニューを心掛け、おやつにヨーグルトを提供したり、体操を行いなるべく薬に頼らないように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には三日に一度、午前中に入浴してもらえるよう支援している。季節を楽しめるようにゆず湯やしょうぶ湯を楽しんでもらっている。	週2～3回、午前浴を基本としているが、本人の体調や気分により柔軟に対応している。シャワー浴や機械浴を活用し、重度利用者でも安全な入浴支援を実施している。入浴拒否がある時は入浴剤を利用するなど、入浴を楽しむ工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のリズムでお昼寝をしていただいたり、夜も個々の時間で入床していただいている。一年を通し、居室とフロアの温度が快適に過ごせる設定にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容について把握し、医師の指示通りに介助している。薬の変更があった時には申し送り、症状の変化など確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人出来る事を役割として行って頂き、残存機能の保持を兼ねて支援している。また、ご家族に嗜好品を持って来てもらったり、外の空気を吸って気分転換等の支援をしている。		



静岡県(グループホームサンシティあらい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により、外出支援がなかなか思うようにできないが、近隣を散歩したりしている。	コロナ禍により外出行事は中止しているが、通院時に遠回りしてドライブ・近隣公民館の花見・神社参拝や、ベランダを利用した外気浴、近隣の散歩など、利用者の希望に合わせた個別対応を実践している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には家族と施設が管理しているが、本人の希望があり、ご家族の同意の下ご家族の同意の額を本人が所持し、使えるように支援する場合がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があり、相手の同意がある場合に見守りの下、電話をかける事を支援している。また、ご家族からの電話を取り次いだりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓を開ける事で光や風を感じてもらっている。また、季節季節に合わせ壁の装飾をし、季節をかんじてもらい、心地よく生活できるように工夫している。	居間の天井が高く、天窓により採光と換気が保たれている。毎朝窓を開けて清掃し、清潔な共有空間を保っている。職員は消毒薬を携帯し、都度手指消毒を徹底している。ポランティアによる生け花など、季節を取り入れた装飾に留意し、利用者も職員も居心地の良い空間作りを心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やフロアの行き来は自由にでき、また、隣のユニットへも自由に行き来出来るようになっているため、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	災害時の安全上、重たいタンスなどの持ち込みは遠慮して頂いているが、馴染みの物を居室で使用して頂き、心地よく安心して過ごせるよう支援している。	居室にはベッドと備え付けの大きなクローゼットがあり、馴染みの品と利用者の心身の状態に合わせた模様替えにより、安全に配慮した利用者好みの部屋作りを支援している。感染症対策として、日中は窓を開け、換気・消毒を心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすでも自由に動きがとれるよう障害物なるべく取り除き、安全に動けるよう支援している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278200155		
法人名	有限会社ワイ・エイチ企画		
事業所名	サンシティあらい		
所在地	湖西市新居町新居117-3		
自己評価作成日	令和4年10月3日	評価結果市町村受理日	令和4年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2278200155-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2278200155-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和4年 11月 4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で自由に面会が出来ない事が多いため、今まで以上に入居者様と職員が家族のような、アットホームな雰囲気笑顔のある居場所創りを心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットのフロア内や、施設内各所に掲示し、いつでも確認する事が出来るようになっている。各ユニットに掲示してある物は、外国人職員にもわかりやすいように、ふりがなをふつてある。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月1回施設の新聞を同地区と隣の地区に回覧してもらっている。地域の女性の会の方が玄関のお花の植え替えに来て下さる時に施設内の様子を話したり、入居者様と植え替えを見学させてもらったりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ前の運営推進会議や地域交流の際に認知症について話をしてきた為、地域の方から相談があったり、入居者ご家族から相談がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により、運営推進会議が書面会議となり、資料を配り意見を頂くような形をとっている。折り返しの形ではあるが意見をくださった事をサービス向上に活かすよう努めている。意見については次の運営推進会議で報告をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現状や取り組みなどについて相談したり、報告をし、意見や助言を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしている事を日頃から話しており、身体拘束をしない介護を常に考えてケアに努めている。		

静岡県(グループホームサンシティあらい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員とのコミュニケーションをしっかりと、個別での話し合いや身体拘束委員会などでも話し合いをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が主に学んでおり、必要性があると判断したり、相談を受けた時に支援できる体制が取れるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはわかりやすい説明を心掛け、確認しながら進めている。また、質問があった時には、理解して納得していただけるよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で書面運営推進会議になったり、行事が出来ない事から、以前より電話連絡する機会を増やして意見や要望を聞き出せるよう努めており、意見や要望がある時にはサービスに反映出来るよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者共に職員が話しかけやすい雰囲気創りに努めており、また、職員に話かけ、困っている事、意見、提案がないか等聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員一人一人を理解して、常に勤務状況を把握できるよう努めており、各自が働きやすく、向上心が持てるよう話をしたり、対応に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が希望する研修等があれば、費用を負担したり、管理者に行きやすい勤務体制を整えるよう指示し、研修等に行きやすい体制創りに努めている。		

静岡県(グループホームサンシティあらい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により、オンラインでの研修会が多く交流の機会が減ったが、電話で情報交換やお互いに相談し合ったりしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から話を聞き、不安な事や困っている事などを聞き取り、「こうしたい」「ああしたい」などの「要望等」にも耳を傾け、安心して生活できる為の関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の話し合いの段階で、家族の意向、要望を出来る限り確認し、出来る事、出来ない事を明確にし、お互いが共通の認識を持てるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態、環境などを理解し、他のサービス利用も含め、その時に合ったサービスを提案、提供をし、本人家族が必要とするサービスが受けられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを大切にし、お互いの信頼関係を築き、寄り添った立場で、日常生活を送る事で暮らしを共にする者同士の関係を気付けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との話し合いの中で、家族の協力が不可欠であり、家族と施設は「チーム」として考えている事を理解して頂き、お互いの関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍以前には馴染みの場所に可能な限り行ったり、話を思い出してもらったり、馴染みの人に面会に来てもらったりしながら関係が途切れないよう支援に努めていたが、現在、面会制限を行っていたり、外出を控えていたりで十分な支援が出来ていない。		

静岡県(グループホームサンシティあらい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格や入居者同士の関係を把握し、職員が架け橋となり、入居者同士話をしたり、一緒にレクリエーションを楽しんだり、孤立することなく、安心して生活できるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、いつでも相談に来てもらえるよう話をし、相談があった時には対応できるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の話の中で一人一人の希望、意向、要望を聞き出したり、感じ取れるよう努めている。また得た情報は職員間で共有している。会話が困難な方の場合には、表情や動きを観察して気持ちをくみ取れるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族や担当ケアマネから情報提供してもらったり、ご本人の話を聞いてご家族に確認したりしながら入居前の生活やサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活リハビリの中で、生活リズム、心身状態、持っている力を把握し、状態変化があった時には申し送りをし、現状把握が出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の現状を理解したうえで、より暮らしやすくなるために、必要に応じて話し合いをし、ご家族の納得の下、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の観察から、気になる言動や行動、様子などは記録し、申し送りをし職員間で共有し、介護計画の見直しに活かしている。		

静岡県(グループホームサンシティあらい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対し、固定観念にとらわれることなく柔軟に対応し、支援が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、室内にはなかなか行けませんが、近隣を散歩する機会を作っている。散歩の途中で馴染みに人に会うことがある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に施設の協力医を希望される方が多いが、今までのかかりつけ医を希望される場合でも、病院と連携を取りながら支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医、施設看護師との連絡はいつでも取れる体制になっており、入居者一人一人が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはスムーズな情報提供が出来るよう努めている。また、入院中の情報提供をスムーズにしてもらえるよう日頃から病院のケースワーカーとの関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に方針の確認をしているが、状態変化や終末期に近いと思われるご家族には、主治医、施設と三者にて再度方針について話し合いをし、方針に従い共にチームとして支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていないが、日頃の支援の中で応急手当や初期対応についてその都度訓練をしている。		

静岡県(グループホームサンシティあらい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回の防災訓練を行っている。コロナ禍により、地域の方や消防署から来ていただくことはしていないが、津波、地震、火災、夜間想定の実験を施設内で行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に寄り添った支援を行う事で、人格を尊重し、プライバシーを損ねない声掛けや対応を努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の状態に合わせて、オープンクエストとクローズドクエストを使い分け、出来る限り自己決定が出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れは決まっているが、そこにとらわれる事無くそれぞれのペースで過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度床屋さんに来ていただいており、散髪、顔そりをし、身だしなみを整え、清潔を保つよう支援している。洋服など自分で選べる方には選んで頂いている。帽子が好きな方は室内でも帽子を楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	フロアから見える調理場で職員が支度をし、調理中の音や香りも楽しんでもらっている。入居者様と一緒に食器の片付けを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録し、必要量が摂取出来ているのか確認をし、その都度対応している。また、一人一人に合わせた食事形態で提供している。		



静岡県(グループホームサンシティあらい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にできない方もおり、夕食後に重点を置き、声掛けや介助にてその人に合った口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パンツを使用している方は夜間も布パンツで対応し、声掛けを行い失敗がないよう支援している。一人一人の排泄パターンを把握し、立てる方はトイレ誘導をし排泄支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良いメニューを心掛け、おやつにヨーグルトを提供したり、体操を行いなるべく薬に頼らないように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には三日に一度、午前中に入浴してもらえるよう支援している。季節を楽しめるようにゆず湯やしょうぶ湯を楽しんでもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のリズムでお昼寝をしていただいたり、夜も個々の時間で入床していただいている。一年を通し、居室とフロアの温度が快適に過ごせる設定にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容について把握し、医師の指示通りに介助している。薬の変更があった時には申し送り、症状の変化など確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人出来る事を役割として行って頂き、残存機能の保持を兼ねて支援している。また、ご家族に嗜好品を持って来てもらったり、外の空気を吸って気分転換等の支援をしている。		

静岡県(グループホームサンシティあらい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により、外出支援がなかなか思うようにできないが、近隣を散歩したりしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には家族と施設が管理しているが、本人の希望があり、ご家族の同意の下ご家族の同意の額を本人が所持し、使えるように支援する場合がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があり、相手の同意がある場合に見守りの下、電話をかける事を支援している。また、ご家族からの電話を取り次いだりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓を開ける事で光や風を感じてもらっている。また、季節季節に合わせ壁の装飾をし、季節をかんじてもらい、心地よく生活できるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やフロアの行き来は自由にでき、また、隣のユニットへも自由に行き来出来るようになっていたため、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	災害時の安全上、重たいタンスなどの持ち込みは遠慮して頂いているが、馴染みの物を居室で使用して頂き、心地よく安心して過ごせるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすでも自由に動きがとれるよう障害物となるべく取り除き、安全に動けるよう支援している。		